

2025年度 第9回2月期定例番組審議会議事録

1. 開催の日時 2025年2月18日(水)
2. 開催の場所 栃木放送本社会議室
参加できない委員には資料を送付して番組をお聞きいただき、意見・感想を返信してもらう形式で開催。
3. 委員の出席 委員総数9名
返信総数5名
出席総数4名

出席委員名	委員長	増田仲夫
	委員	竹内明子
	委員	若井明香
	委員	高橋久夫
	委員	小川俊彦
	委員	井出智子
	委員	北條俊明
	委員	白石智子
	委員	桐生典夫

4. 議 題

(1) 「とちぎふるさとネットワーク」

放送日 2025/9/3(水)、2025/10/29(木)、2025/12/19(金)

放送分を試聴

(2) その他

5. 議事内容

(1) 「とちぎふるさとネットワーク」について

番組視聴：放送した番組を各委員に送付して試聴して頂きました。

議題説明

コーナー概要・目的

・コーナー自体は約20年継続。「ふるさとリポーター」による電話レポートコーナーで、各リポーターに、在住地域の話題や活動を伝えてもらっています。

普段のスタジオからの放送や中継でフォローできない、地域の情報を聴取者に届けることが大きな目的のひとつです。

・レポート内容は、身の回りの自然の話題、地元のイベントの案内、自身の趣味や活動に関すること、日頃感じたこと、民話の語りや映画会の案内まで内容は多岐にわたります。

・地震や竜巻、水害等、大規模な災害や事故発生時には、現地の情報や状況を伝えてもらうこともしています（2011年の東日本大震災、2015年の関東・東北豪雨で実績あり）。

ラジオ出演経験を積み、災害情報の初動対応に備える側面を併せ持っています。

・放送時間は、各人の仕事や活動があるため、日中を避けて朝と夕方に編成しています。

ふるさとリポーターとは

・栃木放送が委嘱するボランティアのリポーター。

県内各市町（一部不在の市町もあり）に1人以上登録しています。

2026年1月現在、29人が実働しています。

基本的には退任時に後任を紹介してもらっているため、約20年の放送のうち、延べ人数は90人程度に上ると考えられます。

・リポーターは市町広報課職員、観光協会職員、観光ボランティア、主婦、そば店経営、交通指導員、弊社アナウンススクール卒業生等、所属や職業、経験は様々です。

個々の都合により脱退や加入は自由。年齢構成は放送時間の都合上、どうしても50代以上が中心です。最も若いリポーターは35歳。

・取材等を通じてリポーターにふさわしいと感じた人物に声掛けをし、なるべく増員を図りたいと考えています。

・希望があれば、各人にリポーターとしての名刺を作成、配布しています。

各委員からは

○地域の個性が生きる本コーナーは、リポーターの親しみやすさが際立っており、特に年配層が安心して楽しめる内容です。7分という放送時間やBGMの選択も適切で、リラックスして聴ける良質な番組構成です。真岡市の回は、冒頭のやり取りにたどたどしさがあったものの、施設紹介は明快で訪問意欲をそそりました。アナウンサーの質問力は高いですが、リポーターが戸惑うほど話しすぎないように配慮が必要。那珂川町の回は、話が冗長に感じる場面もありましたが、聞き手の柔らかな進行がリポーターの良さを引き出しています。さくら市の回は、情報の鮮度が極めて高く、リポーターの卓越した話術と聞き手の明るい掛け合いが相まって、非常に好感の持てる放送でした。

○那珂川町の歴史に触れる内容は、地域外の者にとっても興味深く、単なる施設紹介以上の価値がありました。番組の質は聞き手のアナウンサーの知識や「引き出し」の多さに左右されるため、リポーターの良さを最大限に引き出せるよう、スキルアップして欲しい。また、真岡市の産後ケア施設のような情報は、悩んでいる若い母親層に確実に届くよう工夫が必要です。20年続く素晴らしい番組ですので、今後も多様な視点で地域の人材や話題を掘り起こし、さらに充実した放送を続けていくことを期待します。

○約7分の放送尺は、必要な情報を過不足なく伝えるのに最適です。リポーターとアナウンサーの掛け合いについては、回によって力量の差が顕著でした。リポーターを主役とする番組の趣旨に立ち返り、アナウンサーが主導しすぎることはないよう、自然に話を引き出す進捗を徹底したほうが良いと感じた。12月19日の回は内容がイベントPRに終始しており、リポーターの役場職員という立場を冒頭で明かさなかったことで、過度な宣伝のように映り残念でした。また、電話レポートの音声不明瞭で聞き取りづらい箇所があるため、話し方や中継場所の工夫など、聴取環境の改善が必要だと思いました。

○20年続く長寿番組として多くのファンに支持されている理由がよく分かります。アナウンサーとリポーターの軽快なやり取りは非常に心地よく、生放送とは思えないスムーズな進捗でストレスなく楽しめました。特に、放送局の手が届かない細やかな情報を地元の視点で発信し、対話を通じて内容を深めていく「ふるさとリポーター制度」は極めて素晴らしい取り組みだと思います。紹介された内容はどれも新鮮で、地域の魅力を再発見できました。リポーター層については、長期休暇中などに学生を起用することを提案します。若い世代の視点が加われば、より良い番組になると期待します。7分という放送時間も、飽きさせない最適な長さです。

○軽快なBGMにより落ち着いて聴取でき、各リポーターの地域への熱意も十分に伝わりました。一方で、電話越しのリポーターの音声聞き取りづらく、音質の改善が必要かと。個別のレポートについては、導入や構成に工夫が必要で真岡市の回は話題の入り方が唐突で、内容の把握が困難でした。話の途中で具体的な地名や施設名を適宜補足が必要だと思いました。那珂川町の回は、聞き手のフォローは適切でしたが、結論が後回しで全容を掴みづらいため、冒頭でトピックを明示することを提案します。さくら市の回は、市名の連呼で場所は明確でしたが、肝心の祭事名を失念しやすいため、名称を繰り返し発信し、リスナーの関心を繋ぎ止める配慮を望みます。

○長年続くこの番組は無理なく聴け、年配者にとっても非常に心地よい栃木放送の看板番組だと思う。今後は地域の民話など、まだ眠っている地元の魅力をさらに掘り起こすことを期待します。ただし、若年層に特化しすぎると年配者が疎外される懸念があるため、現在のバランスが丁度いいと思います。リポーターの自然な話し方は非常にスムーズで好感が持てます。聞き手については、小暮アナウンサーの余計な口挟みのない進行がとても良かった。一方で、意図する回答を強引に引き出そうとするアナウンサーも散見され、改善が必要です。実業家の紹介は有意義でしたが、メディアが取り上げない人物には相応の背景があることも留意しつつ、今後も多角的な人物発掘に努めて頂きたい。

○地元の話目を地域住民の言葉で聴ける本番組は、非常に意義深い構成でした。リポーターは一般の方ながら要領よく話をまとめ、地域への思い入れや熱意が聞き手へ十分に伝わっています。マスメディアが取り上げない小学校の行事など、身近な地域イベントを細やかに紹介できる点は、本番組ならではの大きな強みだと思う。朝の約6分間という放送枠も、情報を得るのに非常に適した長さです。今後は、リポーターの層をさらに広げ、若い世代を積極的に起用することで、若年層向けの新鮮な情報提供やさらなるリスナー層の拡大も期待できるでしょう。

○リポーターそれぞれの個性が際立っており、リスナーが毎日楽しめる魅力的なコーナーです。真岡市の回は、リポーターの熱量とアナウンサーの絶妙な引き出しにより、施設の魅力が十分に伝わりました。旧馬頭町の回は、郷土の偉人を紹介する視点は素晴らしいものの、話題の拡散や趣旨から外れた話題には注意を払ったほうが良いと思った。さくら市の回は、内容が広報的ではありましたが、地域愛に満ちた確かな情報発信でした。

○リポーター3名の誇張のない自然な栃木弁は、タレントの話し方とは異なる心地よさがあり、非常に好感が持てました。一方、聞き手のアナウンサーについては、真岡市の回では導入の不自然さから結局アナウンサーが話しすぎてしまう場面があり、改善の余地があります。また「雷鳴抄」のような固有名詞は、誰もが理解できるよう丁寧に補足すべきです。那珂川町の回は、地名の補足など配慮が行き届いた安定感のある進行でした。さくら市の回は内容が事務的で、話題に挙がった作品内容を聞き手が把握していない点に準備不足を感じました。地元の話目を掘り下げる以上、リポーターに寄り添った事前の打ち合わせなどで理解を強く求めます。

当社としては、これらの意見をもとに、今後の番組制作や広報に取り組んでいきたい旨を、各委員に伝えた。

(2) その他

6. 審議内容

上記の通りであり、特に審議決定し、答申すべきものはなかった。

7. 番組審議会の意見の概要の公表

- ① 当社の番組「栃木放送からのお知らせ」（2025年3月15日）
- ② 当社のホームページに掲載（2025年3月16日）
- ③ 当社事務局に議事録備え置き（2025年3月16日～）

以上